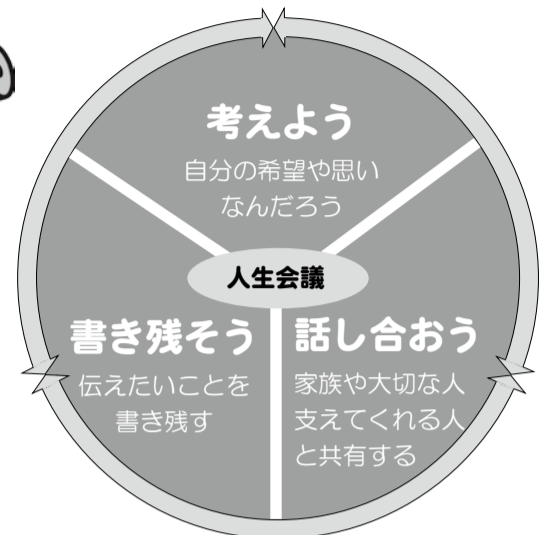


伝えてありますか？あなたの希望 ～始めましょう！人生会議～

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。そして、命の危険が迫った状態になると、約70%の人が、今後の医療やケアなどについて、自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。（厚生労働省ホームページより。）「人生会議」とは、もしものときのために、ご自身が大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自ら**考え**、ご自身が信頼する人たちと**話し合い**をすることを言います。また、その考えや話し合ったことを**書き残す**ことも大切です。これらは、万が一自分の気持ちを話せなくなった時に、心の声を伝えることができるかけがえのないものになります。

しかし、厚生労働省による意識調査（※）では、「人生の最終段階の治療やケアについて家族と詳しく話し合ったことがある」という方は、わずか2.7%という結果でした。（※平成29年度「人生の最終段階における医療に関する意識調査」）

そこで今号は、「自分らしく生ききる」ために大切にしたいことを周囲に伝えたAさんのお話と、「人生会議」に取り組む方法のひとつである「もしバナゲーム」についてご紹介します！



状況や気持ちの変化のたびに、考えを整理し直すこと、話し合いや書き直しを繰り返すことが大切です。



一人暮らしでも「最期まで自宅で、自分の作った料理を食べたい」という希望を伝え、想いを叶えたAさん（70歳代）のお話

考えよう。



Aさん

長年、自宅で夫の介護をし、夫が施設に入所した頃に自身が癌の末期だと告知されました。一人暮らしで常に車椅子が必要な生活となり、医師には積極的な治療は出来ないため、緩和病棟に入院することを勧められました。けれど私は、今後の人生を考えたときに、自宅で自分の作った料理を食べられるような生活を最後まで続けていきたいと思っています。

大切な人と共有しよう。



遠方に住む息子さん

母は一人暮らしなので心配ですが、最期は本人が望むようにしてあげたいです。

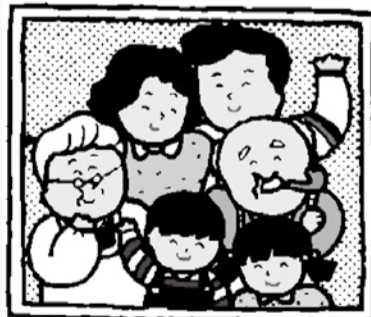
訪問診療医

月2回ご自宅を訪問して、体調管理を支援していきましょう。

病院の相談員

自宅での生活を始める前に、入院中から作業療法士とホットプレートを使った調理練習をしてみましょう。また、自宅の状況を調べて、車椅子でも使いやすいように住宅改修と家具や家電などの配置替えのための調整をおこないますね。

医療や介護の専門職も、あなたの「こうありがたい！」をサポートします！



話し合おう！

看護師

痛みを和らげる支援やお薬の管理のために訪問をしますね。週1回はリハビリとして一緒に調理もしてみましょう。

福祉用具専門員・住宅改修事業者

台所に行きやすいようにリビングに電動ベッドを設置して、リビングから台所の段差をなくす住宅改修を行うことができますよ。電子レンジや冷蔵庫も使いやすいように相談しながら配置替えをしてみましょうか。

ホームヘルパー

おむつ替えや車椅子への乗り降り、掃除など、日常生活の支援をすることができます。調理についてはAさんと一緒にメニューを決め、味つけはご本人にさせていただくのもいいかもしれませんね。

介護支援専門員

Aさんがご自身の最期はどうしたいのかという希望を私たちにしっかり伝えてくださったので、必要な支援方法をチームで検討して関わりを始めることができます。自宅での生活が始まってからも医療や介護の関係者で連携をとりながら、Aさんをチームで支援していけるといいですね。

訪問入浴事業者

週2回の入浴を支援していきます。お一人での生活は心配ですが、チームで情報を共有するように心がけて支援していきますね。



Aさん

自宅に戻り、一人での生活が始まりましたが、皆さんで私の希望を叶えてくれて嬉しいです。様々な方が自宅を訪ねて来てくれるので寂しくないし、自宅で生活を続けることができ満足しています。

皆さんで連携してサポートしてくれるので、遠くに住んでいても安心しています。



遠方に住む息子さん

もっと安心 ずっと流山



自分の希望や価値観について、考えて、話し合う、取り組みが始まっています。裏面にてご紹介します！